

平成24年度事業計画

1. 火薬類に関する調査研究

各専門部会及び委員会においては国内外で話題になっているテーマを取り上げ、学会活動の充実を図るとともに、新規テーマを掘り起こしたい。用語集の見直し、最新の試験方法の学会規格集の発行、ホームページを充実し、閲覧可能な研究論文の追加等を行う。また、法人制度の改正に伴い、一般社団法人の認定を得るための活動を行う。

専門部会及び委員会の事業計画は次の通りである。

- (1) 爆発安全専門部会は、爆発、高速燃焼及び衝撃に関わる現象並びに高エネルギー物質の感度及び威力の評価に関連する事項のほか、安全工学的な観点も視野に入れて取り組む。今年度は、国際規格を導入した火薬学会規格（試験方法）の改訂版を完成させ、会員に配布する。部会は2ヶ月おきに開催し、年2回程度の見学会及び他の専門部会と共催した講演会や研究会の開催を行う。
- (2) 発破専門部会は、年5～6回の部会及び見学会を開催し、適宜講演会を持つ。今年度は将来、火薬類の使用が考えられる農耕発破、ミニブラスティング、海洋開発などの分野の発破に関し再勉強を行う。また、発破用語集の見直し作業を行う。第10回フラグブラストシンポジウム（インド）に参加する。
- (3) プロペラント専門部会は、会員からの情報提供をはじめ世界各国にて研究発表を行ってきた内容の紹介及び研究の方向性を明らかにしていく。研究会（推進系及び推進薬に関する燃焼、合成、感度特性等、および今後開発される可能性の高い高エネルギー物質などについて）を4回程度開催する。大学での研究状況をアピールするために卒研または修論の内容に関して発表会を開催する。見学会は1回程度開催する。
- (4) 火工品専門部会は、火工品の基礎科学、性能および危険性に関する講演会を2～3回、研究会を1～2回、工場・研究所見学会を1～2回行う。また、内外の火薬類や火工品に関する資料を収集し整理して文書化する。さらに、元寇時の沈没船からでた「てつほう」の爆発威力の調査・研究を、松浦市教育委員会、九州国立博物館、瀬戸製土㈱、愛知県陶磁器資料館、科学警察研究所、日本煙火協会と共同で行う。
- (5) 煙火専門部会は、煙火製造・運搬・消費等の安全化と環境対応に必要な情報の収集や科学知識の確認、関連分野の専門家による講演、伝統花火技術の検討を中心に活動する。部会4回、講演会1回、見学会1回を予定している。
- (6) 爆発物探知専門部会は、爆発物探知に関する開発、技術、運用などや、その他委員が必要とする共通な問題点について協議検討及び情報交換を行うと共に、講演会、見学会、探知セミナーの開催を計画する。
- (7) ガスデトネーション専門部会は、気体のデトネーションの問題を研究範囲とする。部会の運営は電子メールとホームページを通して行い、完成した研究成果はホームページにおいて火薬学会会員にオープンにする予定である。
- (8) 爆発衝撃加工専門部会は、主として爆薬衝撃加工関連の企業、研究機関及び大学からの火薬学会会員の増強をはかり、独自の研究会・見学会の開催や各種の学術講演会活動の支援の推進を計画している。専門部会では、最新の研究・技術情報の交換だけでなく、広く共同研究や国際交流活動も見据えた積極的な展開を目指す。特に本年度は沖縄で開催予定（2013.3月末）のESHP国際シンポジウムを共催支援する予定である。

- (9) 自動車用安全部品専門部会は、昨年度に引き続き自動車用安全部品及び世界的な化学物質の規制に関する情報を共有するとともに、火薬を用いた新たな安全部品の開発動向を予測し、次々世代の安全部品の開発とそれに向けた産官学の連携の橋渡しを行う。昨年度完成させた「自動車用安全部品専門用語集」については、今後幅広い意見をもらいながら運用面についても検討していきたい。昨年度は専門用語集作成に集中したため、実現出来なかった他専門部会との合同部会についても実現させ、連携を強化したい。年4回以上の部会を開催、年2回以上は見学会及び講演会を開催する計画である。
- (10) 編集委員会は論文誌「Science and Technology of Energetic Materials」及び学会誌「EXPLOSION」発行のため年3回の委員会を開催する。又、企画委員会と連携し、電子媒体の改善、過去の論文誌のアーカイブ化を進める。印刷工場を視察し、会誌の改善点を探る。
- (11) 企画委員会は、火薬学の周辺領域への啓蒙や連携、学会の活性化、国際化のための企画を検討し、推進する。また、各種事業及び将来構想についての討議を行い、関連委員会に協力する。
- 広報小委員会は、会員、非会員向けの情報提供など各種広報活動を行い、オンラインジャーナルの発行、既刊論文誌のオンラインジャーナルとしての公開、EXPLOSION誌の電子化などインターネットを利用した会員への各種サービスの充実を図る。ホームページにテキスト広告を掲載し、学会の収入の増加を図る。
- 国際小委員会は、IGUS-EOS、EPP作業部会の情報を翻訳し、学会ホームページに掲載する。また、ISEM2014実行委員会に加わり、開催準備を支援する。
- (12) 西部支部は、幹事会を2回開催する。火薬類の基礎科学、性能および危険性に関する講演会2回、西部地区の大学、高専の卒業論文および修士論文の発表会を開催する。また、元寇時の沈没船から得た「てつはう」の爆発威力の調査・研究を、松浦市教育委員会、九州国立博物館、瀬戸製土(株)、愛知県陶磁器資料館、科学警察研究所、日本煙火協会と共同で行う。

2. 火薬類に関する研究発表会、セミナー等の開催

- (1) 春季研究発表会は慶應義塾大学日吉校舎において、5月24日(木)～25日(金)に開催する。
- (2) 秋季研究発表会は、九州以外の会場も視野に入れて西部支部で検討する。
- (3) 研究会、講演会、事故分析セミナー、爆発物探知・テロ対策セミナー等を開催する。他学会の協力も得、広く火薬類に対する理解を得る。テーマ、開催日時、開催場所等は決定次第ホームページ等を通じて案内する。
- (4) ISEM2014実行委員会を立ち上げる。
- (5) その他、安全工学シンポジウム、衝撃波シンポジウム、燃焼シンポジウム、高圧討論会、火薬類の製造と保安の講習会等に共催者又は後援者として参加する。

3. 火薬学会賞の授与

火薬学会賞の授与 ①学術賞、②論文賞、③技術賞及び④奨励賞を審査し、授与する。

4. 学会運営

通常総会、評議員会、理事会(年3回)、運営委員会(年6回)を開催する。

公益法人法による組織変更の要請により、一般社団法人としての認定取得をはかる。